

研究タイトル:

近世における灌漑水利の地理学的研究



氏名: 高橋 清吾 / TAKAHASHI Seigo E-mail: takahashi @toyota-ct.ac.jp

職名: 助教 学位: 博士(学術)

所属学会・協会: 人文地理学会, 歴史地理学, 兵庫地理学会, 全国地理教育学会

キーワード: 灌漑水利, 水利秩序, 近世, 歴史地理学

技術相談

- ・中学、高校、高専生に対する地理教育、地域研究等の指導
- ・自治体史編さん事業

提供可能技術:

研究内容: 伝統的水利秩序の解明

本研究は、前近代の村落における灌漑水利について検討するものである。近代以前から村落では山林や原野の利用等に関するさまざまな社会秩序が存在し、これらの秩序は人々が生活を営む上で重要であった。灌漑水利もその一つであり、人々が生活の糧を得るためにも重要度の高い秩序と言える。しかしながら現代では国内における産業構造の変化や農業従事者の高齢化等により農業自体が衰退しており、近代以前に形成された水利秩序が消失しつつある。この結果、現存する溜池の維持管理がなされず、自然災害の発生時に堤防の決壊等が懸念されている。自然災害の影響を受けやすい日本においては、灌漑水源の維持管理の徹底は喫緊の課題であり、現代社会に即した新しい水利秩序の構築が必要である。

それゆえに、日本各地で行われてきた伝統的な水利秩序の記録を留めておく必要があると考える。これは現代における新しい水利秩序を構築する際に混乱が生じぬための、いわば基礎的研究に当たると考えるからだ。灌漑水利の研究を進めるに当たり、用水の性質に鑑み、自然的、歴史的の両面からのアプローチが必要である。そこで、前者については地形や河川の特徴から、後者については古文書や絵図などの歴史的資料の解読や聞き取り調査を進めていく。

上記の視点に基づいた研究成果について紹介する。大阪府泉佐野市日根野地区は、中世(鎌倉時代)に灌漑水源の整備と農地開発が進められた。伝統的水利体系は明治時代以後も続いたが、高度経済成長以降、第一次産業の衰退に伴う余剰水の転用課題が生じ、農業用パイプラインを敷設することで農業用水の合理化策がとられた。その結果、農作業時には各耕地付近のパイプラインの操作のみで用水が得られ、古くからの用水路やため池を利用する必要が低下している。ただし、水田への引水の日程や時間の規制は存続しており、形を変えながらも水利秩序は継承されていることも判明した。現在、日根野は都市化が進む一方、住宅地の後背部には広大なため池群が位置しており、今後は堤体の維持管理等の対策が必要である。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	

Geographical study of irrigation in the Early Modern Period



Name	TAKAHASHI Seigo	E-mail	takahashi @toyota-ct.ac.jp
Status	Assistant Professor		
Affiliations	The Human Geographical Society of Japan , The Association of Historical Geographers in Japan , The Japan Association for Geographical Education , The Hyogo Geographical Association		
Keywords	irrigation, water rights, early modern, historical geography		
Technical Support Skills	<ul style="list-style-type: none"> •Instruction of Geography education and the area study •Editing of the local government history 		

Research Contents

Available Facilities and Equipment
